

読書リスト



004 TICA

閣下さんと健ちゃんのおかげで話題の本が読めることに感謝感激雨も霰です。

作品	著者	コメント	評価
聖女の 救済	東野圭吾	<p>天才物理学者、湯川学が探偵役のガリレオシリーズの長編。容疑者に恋心を抱く刑事の草薙。この恋は、印象が薄い本での草薙よりドラマの北村一輝の毒の強さの方がより強調されそう。これもまたドラマに小説が影響されているという逆転現象の表れか。</p> <p>原作にはいない女の刑事（柴咲コウ）がドラマの主役に加わったので、この小説にも登場させた。新聞記事には、そういうところが東野圭吾の柔軟さだとおべんちゃらが書いてあったが、白衣しか着なかった湯川に最近の本ではアルマーニを着せたのもドラマが福山だったからだろうし、そういうのって、柔軟というより軟弱や迎合じゃないでしょか。犯罪の動機も納得しがたい。でも現実に34年前の犬の復讐のために人を二人も殺す人間が出てきたのでこんな殺人もありか、と妙に納得させられてしまった。不謹慎な言い方だけど、時期的には東野圭吾ラッキー。</p>	<p>「流星の絆」 「ガリレオ」と続けて東野圭吾を読んだけど、どれもイマイチ。結局「容疑者X〜」が最近じゃ一番。</p> <p>でも読んでいるときは楽しいのが東野圭吾の魅力なんですよ。</p>
傷だらけの 天使 ～魔都に天使 のハンマーを	矢作俊彦	<p>1974年放送、『傷だらけの天使』のその後。風邪を引いて死んでしまったアキラ（水谷豊）を小暮修（ショーケン）がドラム缶に入れて海に放置するところでドラマは終わったが、それが殺人と死体遺棄の罪になり修ちゃんは追われ、海外に逃亡していた、という設定で始まる。日本に戻ってきて宿なしの生活をしている修ちゃんの身に降りかかる暴力。ドラマはもっとせこい事件が多かったように思うが、この話は、大がかりで大雑把というか乱雑。東京でオリンピックが開かれた際の弊害に一番力入ってたみたい。</p> <p>今は鬼籍に入ってしまった岸田今日子、岸田森も元気に登場する。本の帯に知らない人が読んでも面白いとあったけど、郷愁やくすぐりで読む作品だと思うからキャラクターを知らないと楽しめるところはなさそう。</p>	<p>修ちゃんは相変わらずろくでもない男だけど、アキラを想ってよく泣く。修ちゃんもすっかり年をとってしまったんだなあ。。</p>

とんび	重松清	<p>ヤスさんに長男アキラが誕生してとんびと鷹の親子の話が始まり、アキラが東京に出て子連れの人との結婚までを描く長い時間が流れる話。</p> <p>我儘も横暴も照れ屋という言葉に組み込んでしまうお父さんの不器用さに「北の国から」の黒板五郎を思い出した。この手の父親だと息子が苦労するが、愛情の出しかたが五郎ちゃん（知り合いか！）と違いストレートなので扱いやすそう。</p>	<p>修ちゃんとこのアキラと違ってこちらのアキラはとても真面目。</p>
犯罪小説家	雫井脩介	<p>新進作家と女性ライターと映画脚本家の3人がネットの自殺サイトを背景に過去の自殺とされている事件を探っていく。</p> <p>題名はいいのに、テーマだけでもっていこうとした完全失敗作。途中で語り手が変わるのもなじみにくい。新進作家が受賞して映画化になるという小説が劇中劇で出てくるが「凍て鶴」という題名どおりの古臭い話。こんな話じゃ賞を取れないでしょってことからして乗れない。ついでに言えば、登場人物が昭和のパターンっぽい。</p> <p>女性ライターが作家と脚本家の二人を疑うところはちょっと面白かったけど、そこから結末までがあんまり。</p> <p>雫井脩介は「犯人に告ぐ」までは好きだったけど、もう好きな作家からはとっととはずしましょ。</p>	<p>とっても変な人たちのとっても変な話</p>
東京 バンドワゴン	小路幸也	<p>明治創業の古本屋が舞台。4世代同居の家族の春・夏・秋・冬の4章からなる物語。少しずつ秘密を抱えた大家族に起こる小さな事件に、一喜一憂するオトナの賑やかさが羨ましい。</p> <p>昭和のホームドラマ風展開のようだが時代設定は今。テレビドラマになったら、60才を過ぎてふらふらしてる金髪ロッカーのお父さん役は高田純二で。是非。</p>	<p>子供の名前が色で統一されている。ダンプの一茶のファンか？</p>
壁抜け男の謎	有栖川 有栖	<p>犯人当てやショートストーリーなど16の話を集めた本。試験的な感じがすると思ったら、テーマを決められた注文をまとめたとのこと。</p> <p>その中の「Cの妄想」は、推理小説で犯人になっていないのは読者だけというのに挑戦したよう</p>	<p>そういえば、まことちゃんハウスの模図さん勝訴おめでとう。</p>

		な話。「猛虎館の惨劇」のおうちは全部が阪神。 Cacco さんなら住めるか？私は猛虎館より、断然 たまちゃんハウスに住みたい。	
九つの、物語	橋本紡	樋口一葉や泉鏡花など9人の作家の本を題名にした連作。＜大切な人を、自分の心を取り戻す再生の物語。大学生のゆきなのもとに突然現われた、もういるはずのない兄。奇妙で心地よい二人の生活は、しかし永遠には続かなかった。母からの手紙が失われた記憶を蘇らせ、ゆきなは心は壊れていく…。もう一度取り戻せるだろうか。失ってしまった、大切な人を。見えなくなった、自分の心。繊細で壊れやすい心に響く、9つの物語＞この本を語るなら、優しい穏やか繊細ゆっくり、こんなキーワードになるだろう。その良さの深みまで入れずに、退屈。私には向いていない。 繊細を売り言葉にするより、繊細な部分を隠す方が好きなもので。	昔の作家さんの本の題名を章の頭に持ってきて、それに絡めるという話作りや、再生って言葉も好きなのですが。。
展望塔の殺人	島田荘司	読む本がなくて奥をあさっていたら、出てきた。 20年以上前に刊行されている話。当時の社会を描いたものなのかもしれないが、全体的にもったいぶった感があるわりにたいしたことない。	古典になるのは難しい。
きつねのはなし	森見登美彦	やっぱり「太陽の塔」と同じ感想。不思議作家。読めない。	
地下鉄（メトロ）に乗って	浅田次郎	＜永田町の地下鉄駅の階段を上がると、そこは30年前の風景。ワンマンな父に反発し自殺した兄が現れた。さらに満州に出征する父を目撃し、また戦後闇市で精力的に商いに励む父に出会う。だが封印された“過去”に行ったため……。思わず涙がこぼれ落ちる感動の浅田ワールド。吉川英治文学新人賞に輝く名作＞ タイムスリップして生まれてくる人を生まれなくしてしまうとその人と関わって来た人たちの人生はどうなってしまふんだろう。この話では、その人の存在した記憶自体がなくなるとしているが、存在していたときの生活はどこに行ってしまうんだろう。生まれなくしてしまったことで完	風貌と小説が一致しなさすぎて、胡散臭い浅田次郎。 人を外見で判断してはいけない。 いけないけど、胡散臭い浅田次郎。

		<p>壁パラドックスを生んでるでしょ。</p> <p>多元的宇宙ではその人とその人に関わった生活があるのか。じゃあ、現実だと思ってるこの今も多元的宇宙に行ってしまうのかもしれない。</p> <p>タイムスリップものをお手軽に感動話（私はそうは思わないけど）に使ってるだけで、時間のねじれについては納得させてくれないからこっちは余計なことまで考えてしまう。</p> <p>親子の話も、いい人だった父と横暴になった父の間がないからなぜ変わったのかわからないし、兄の自殺前の電話で母親がなぜ口走ったのかもわからないし、それで自殺してしまう兄もわからない。けど、一番わからないのは泣きどころでした。</p> <p>ちゃんちゃん</p>	
悼む人	天童荒太	<p>最初の5ページで面白いと思った。静かな人の話を私としては珍しくゆっくり読んだ。</p> <p>事故や事件で人が亡くなった場所を訪ね歩き、故人のことを忘れないと胸に刻む静人。一悼む人。</p> <p><誰を愛し、誰から愛され、誰に感謝をされたでしょう>死んだ原因や状況で感情を揺すぶられることがないように、そのみっただけを故人の周りの人に聞き、心に留める。静人の行動に疑問を抱きともに歩き始める夫殺しで服役していた女と、同じく疑問を抱きつつも大きな影響を受ける新聞記者、余命を宣告され家で最期を迎える静人の母の、それぞれの時間。</p> <p>次回DGで『悼む人』特集をやるらしいので、感想はそのときに取っておきます。</p>	<p>重い話を重く書く天童荒太の直木賞受賞作品。</p>

前回「個人的な読書記録」として残してみる程度の気持ちで書いてみようと思つたのに失敗失敗。つい、ぐだぐだ長くなる。そのうえ、感想文を書くのが下手だからこれじゃ話の内容がちっとも伝わらないでしょね。

『天声人語』に短い文章は長い文章を書くより難しいと書いてあり、<今日は急いでいるので長い手紙になってすみません>と書いた詩人や、<1時間の話ならすぐに始められるが、10分の話は準備に1週間かかる>と言ったアメリカの大統領の話があった。

次回からはどこかからあらすじを引っ張って来て書くことにします。

<漫画>

たまちゃんハウス (1~4)・逢坂みえこ

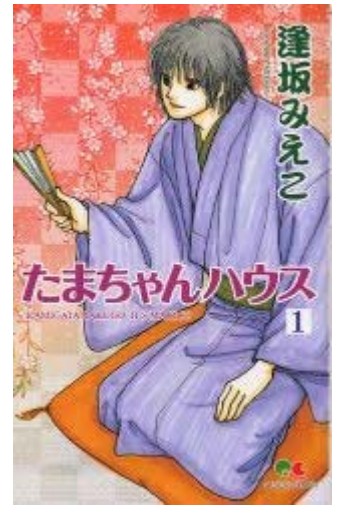
逢坂みえこさんの漫画の主人公には女性消防士など特徴のある仕事を持つ人が多いけど、落語家というのは異色。

それも舞台は上方落語。桜花亭春福師匠の3人の弟子、早春・春々・白春と師匠の娘たまちゃん。それぞれの人物設定だけでも楽しめる。

大阪弁の女の芸能人はなぜか好きになれない人が多いけど、ここに出てくる人たちの大阪弁にうるささや下品さはなく、すんなりと馴染める。

大阪出身の作者もきっとよい人なんだと思う。

でも、また高校生が主役の「永遠の野原」「君が幸せだったとき」みたいな甘切ない話も読みたいと思うレーびゃく、レーじゅう、レーオです。びゃくっておいっ



PONG☆PONG (1~3)・小沢真理

主人公が性同一性障害の男の高校生なんだけど、重くならず軽い気持ちで読めるのはストーリーの運びやキャラ作りもあるが、絵の下手さが大きく作用しているように思う。



<落語>

最近のマイブーム、古典落語。

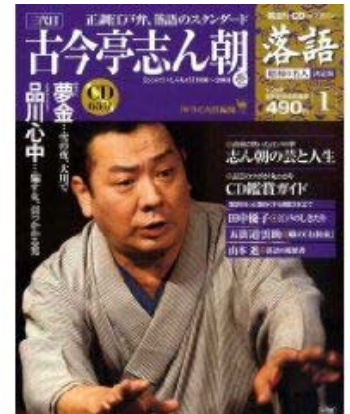
昔から落語は好きだったけど、最近特に古典落語が聴きたくて

友達に言ったらいきなりCD10枚を貸してくれた。

ちょうど、落語名人決定版シリーズも発売されて購入。

年末年始のテレビでも「立川談志 きょうはまるごと10時間」で談志を聴き「教育テレビの逆襲 ～よみがえる巨匠のコトバ～」で志ん生の高座を見て落語三昧でした。

江戸っ!・・はい。(ラーファン限定ネタ)



005 Cacco

沈黙博物館 小川洋子 ちくま文庫

ある村の駅に降り立った博物館専門技師。かれを出迎えたのは季節に似合わぬ半袖のブラウスを着た長い髪の少女だった。彼女の養母である雇い主の老婆の指示の元に、かれは村の死者たちの形見を展示する「沈黙博物館」を作ることになる。その形見は死者にふさわしいものでなくてはならず、その人の生きた人生を語るものでなくてはならない。

たとえばわたしが死んだとき沈黙博物館に展示するにふさわしい形見とはなんだろう？わたしはわたしを端的に表すそういう一品を持っているだろうか？

で、思いついたのがDG。そのときの最新刊を展示してもらおうかな。

本の内容はまたまた無国籍で、ミステリーの様相も見せる割に静かで何がどうなってもおかしくない不思議な匂いを醸し出す。面白い。博物館の開館までの設計から展示方法すべてを受け負う博物館専門技師という職業にも惹かれます。



茨の木 さだまさし 幻冬舎

妻と離婚し郷里の身内とも疎遠になっていた男の元に、ある日父の形見というバイオリンが届く。男はバイオリンの作者を訪ねてイギリスへと向かう。舞台が海外ってせいもあるのかなんだか全体ピンとこない。読んではいないけれど「夏解」とか「眉山」の方が面白そう。さだまさしは歌詞は泣けるんだけどやっぱり小説家ではないんじゃないだろうか。



この間グリコちゃんとぼったり廃墟繋がりで会ったとき、グリコちゃんに「今おすすめの漫画はなに？」と聞いたところ「よしながふみさん！」という答えが。もともとよしながふみさんは大好きな漫画家萩尾望都さんがずっと一番面白いと言っていた。そのうえ大好きなドラマ「アンティーク西洋骨董洋菓子店」の原作者でもある。やっぱ読まなきゃと決心！（どうも絵柄とかエッチっぽいところに抵抗があった）読んでみると面白い！今までの漫画とどこか一味違う。娘が怒る母親に言う。「それって八当たりじゃない!?」母親は言う「そうよ、八当たりよ。周囲の人間がみんなあなたに対してフェアでいてくれると思ったら大間違いよ！」その通りだ。祖父から「人を分け隔てしてはいけない。すべての人を等しく愛せ」と教えられた娘はある日気づく。「恋って人を分け隔てすることじゃない？」そしてなんと彼女はシスターになってしまうのだ！

よしながふみさんの評価が一気にあがったのはこの「大奥」からじゃないんだろうか？男女逆転大奥物語。これも面白いけれどわたしは今のところ現代ものが好き。こちらが「アンティーク西洋骨董洋菓子店」。この漫画はあまりに面白いのでいずれDGで特集しちゃいます。期待して待っててください（笑）



001 健

	読書日 2008年	タイトル	著者 出版社	表紙	コメント	評価
1	1123- 1127	ガロ曼荼羅	「ガロ」史 編集委員会 TBS ブリタニカ 1,800円 (1,500円)		青林堂設立30周年記念として刊行されたもの 「ガロ」の創刊号(1964年9月)から318号(1991年6月)までについて ①全表紙(カラー)②作家別掲載作品③約30年におよぶ歴史と変遷④作家・著名人からガロへの書き下ろし寄稿文を網羅している。 2002年に廃刊になってしまったがガロは作家が自由に描けた数少ない雑誌。それだけに思い入れを綴る寄稿文の多さに繋がっている。	
2	1204- 1205	マジシャン 完全版	松岡圭祐 角川文庫 580円		タダでカネを倍にしてくれる人がいる！という怪しげなうわさ話に大規模な詐欺の臭いをかぎつけた刑事・舛城は、マジックの天才少女・里見沙希と、詐欺師との頭脳戦に挑む。人の心理の裏をつくトラップがふんだんに使われているところが小気味いい。マスクマンというマジックのネタバラシをしている人がいたけどこの本もその傾向あり。心理マジックにはうなずけるとろが多い。	
3	1206- 1207	草祭	司城志朗 小学館 1,470円		団地の奥から用水路をたどると、そこは見たこともない野原だった。「美奥」の町のどこかでは、異界への扉がひっそりと開く。消えたクラスメイトを探す雄也、衝撃的な過去から逃げる加奈江…異界に触れた人びとを描いた五つの連作短編集。この人の描く異界は現代感覚を伴った独特の世界。血族友人同士で殺しあう話もあるが、グロさは無く、突き抜けた美しさがある。	
4	1209- 1210	詐欺を追いつめる報道記者 イマイと申します。	日本テレビ 報道特集 プロジェクト 新潮文庫 420円		日本テレビの人気ドキュメントを収録したもの。悪徳業者へしつこく電話を繰り返す手口をテレビで明らかにした点は買えるが逮捕に繋がられないのに不満が残る。 第1章 イマイ v s. 海外ロト宝くじ業者 第2章 イマイ v s. 架空請求業者 第3章 イマイ v s. 指詰めのマサ 第4章 イマイ v s. 懸賞詐欺集団	
5	1211 1214	小説 日本婦道記	山本周五郎 新潮文庫 500円 (100円)		日本の妻や母の清々しいまでの強靭さを描いた11編の連作短篇集。 感動する作品は多いものの物言わぬところが本当にいいのか考えてしまう部分もないではない。	

6	1215-1215	レイクサイド	東野圭吾 実業之日本社 1,575円 (100円)		夫の愛人を殺したと告白する妻。湖畔の別荘で四組の親子が参加する中学受験の勉強合宿で起きた事件。親たちは子供を守るため自らの手で犯行を隠蔽しようとするがどこか不自然な点に夫が気付く。「お受験」に関わりのない自分にもわからないではないが馴染めない。
7	1216-12	薬指の標本	小川洋子 新潮文庫 380円 (0円)		楽譜に書かれた音、愛鳥の骨、火傷の傷跡…。人々が持ち込む思い出の品々を何でも標本にする標本技師。受付として雇われたわたしが経験する奇妙な恋愛。この人の書いたもので良かったのは「博士の愛した数式」ぐらい。発送が面白く透明感のある精密な文章のわりに構築した不思議空間の先に何も無い。何か読後感がわからないんだよなあ…。
8	1219-1220	はぐれ牡丹	角川春樹 事務所 1,890円 (200円)		日本橋両替商の跡取り娘一乃はかけ落ちて夫・鉄幹と四歳になる幹太郎の三人で裏店暮らし。貧しくとも幸福な日々を送っていたがある日竹やぶで匱一分金を見つける。一方同じ裏店のおあきが人さらいにあってしまう。一乃たちは、おあきを助けるために立ち上がる。登場人物の設定が面白い割りに能力が不足しているので痛快感が無いのが欠点。夫にもいい見せ場を作って欲しいもの。
9	1221-1222	それでもやっぱりがんばらない	鎌田実 集英社文庫 580円 (350円)		あきらめないけど、がんばりすぎない。世界中の“いのち”を丁寧に生きる人たち、“病”だけでなく、“心”も受けとめる優しい医療をめざして奮闘する医師のエッセイ集。病気でもなければ読まなかったらと思う本。何回か入院して大病院の医療を経験している問題点も眼につく。身近にこういった医師たちが増えることを切に思う。
10	1223-1224	賢者はベンチで思索する	近藤史恵 文春文庫 600円 (350円)		ファミレスでバイトをしているフリーターの久里子。いつも同じ窓際の席で何時間も粘る国枝という名の老人と共に近所で起こる事件の解決に乗り出す。一種の安楽椅子型の探偵もの。この人の文章は人の心の中を忖度して書いているせい心地よく読める。
11	1225-1225	吉野北高校図書委員会	北森 鴻 光文社 1,575円		友情と恋愛感情に揺れる男友達の大地と大好きな後輩がつきあいだした。彼女なんてつくらないって言ったのに。二人に接するうち、大地への微妙な想いに気づいてしまったかずら。一方図書委員たちを描いた青春もの。40年ぶりに中学の同窓会に出席したあとだったので不器用だった昔の青春を思い出してしまった。

12	0101-0103	にわか大根	近藤史恵 光文社文庫 580円		芝居小屋が軒を連ねる江戸は猿若町。上方への巡業から戻った人気女形が、なぜか突然大根役者になっていた。そんな折り、その幼い息子が不審な死を遂げる。男前で推理が冴えるが女心に疎い同心・玉島千蔭。父は芝居好きで妻は息子の見合い相手。何となく「剣客商売」を思わせる。江戸の芝居文化を随所に書いているところが新鮮。
13	0104-0107	秘密の多いコーヒー豆	クレオ・コイル ランダムハウス 講談社文庫 882円		旧友が開発したカフェインレス・コーヒー豆の味は格別。発売が叶えば、必ずや、レアの店に莫大な利益をもたらしてくれるはず！けれど、商売繁盛どころか幻の豆をめぐる裏取引や密輸、はたまた殺人事件にまで巻きこまれてしまう。珈琲が好きなので購入した久々の翻訳もの。ストーリーはまあまだがサクサク読めてコーヒー文化も味わえる。
14	0110-0111	トンコ	雀野日名子 角川 ホラー文庫 540円 (105円)		高速道路で運搬トラックが横転し、一匹の豚、トンコが脱走した。先に運び出された兄弟たちの匂いに導かれてさまようが、なぜか会うことはできない。彼らとの楽しい思い出を胸に、トンコはさまよい続ける…。日本ホラー小説大賞短編賞とあるがいわゆるホラーではない。読み進めるうちにトンコへ感情移入した時に感じる切なさ・不安が恐怖となって返ってくる作品。他に親の愛情に飢えた少女の物語「ぞんび団地」、究極の兄妹愛を描いた「默契」を収録。
15	0112-0113	ゆげ福 博多探偵 事件ファイル	西村健 講談社文庫 530円		探偵(ゆげ福)は博多でラーメンの屋台を出していた父親の失踪の謎を追う中で、奇妙な事件に遭遇する。次々に起こる残酷な事件を鋭い嗅覚と、取り巻く人々の温かい人情で乗り越えてゆく。博多の町並みとラーメン文化がほど良く取り込まれていて興味深く読めた。
16	0114-0114	告白	湊かなえ 双葉社 1,470円 (950円)		母子家庭の女教師の勤める学校のプールで娘が水死する。事故として処理された事件ではあるがやがて自分の生徒に殺されたのだと気付く。事件を中心に各章ごとに関係者のショッキングな告白がはじまる。少年法、上辺だけの熱血教師、いじめ、モンスターペアレント、劣等感、親子の交流など各章ごとに、今の世の中を考えさせられる話の展開になっている。元々は一章だけの作品だったのものに追加した経緯があるそうで最終章ともなるとそそくさとまとめに入ったような感じになっているのは減点だ。

17	0115-0122	浜町河岸の生き神様	佐藤雅美文春文庫 610円 (350円)		御家人として出世街道をしくじった大番屋元締のもとに、毎日のように持ち込まれる面倒な相談事。加えて家族にも厄介事が起きる…。 厄介事は面白い題材だが時間が解決しちゃうみたいになちゃんとした解決になっていないところが大いに不満
18	0117-0118	猿若町捕物帳 巴之丞鹿の子	中島史恵 光文社文庫 500円		「猿若町捕物帳」シリーズの第一作。「にわか大根」が面白かったので購入。 登場人物も個性的で読みやすい。猿若町は芝居小屋があったところ。著者は江戸の芝居研究を専攻していた経歴がありそれを生かして江戸情緒を上手く醸し出している。
19	0119-0124	レイコちゃんと蒲鉾工場	北野勇作 光文社文庫 560円 (100円)		蒲鉾工場に勤めるぼくが巻き込まれるのは奇っ怪な事件。怪物化した蒲鉾に社員が誘拐されたり、食べられちゃったり…。 特殊事件調査検討解決係の一員として、係長に危険な任務を押しつけられる毎日だ。ちょっと生意気な小学生「レイコちゃん」との冒険が、ぼくをさらに不思議な世界へと運んで行く。滑稽な話の中に妙に詩的な章がありなかなか面白い作品。 怪物が蒲鉾でなければ普通のSFファンタジーなんだけどね。
20	0120-0121	かつどん協議会	原宏一 集英社文庫 480円		かつどんにとって最も重要なものは何か。豚肉、卵、ご飯、玉葱一具材それぞれの代表者たちが、かつどんへの愛と名誉のためにバトルを繰り広げる表題作他、政治をくじで決めようという理論が巻き起こす騒動を描く「くじびき翁」、当事者に代わって最良の謝罪をする「謝罪士」の活躍を描く「メンツ立てゲーム」を収録。東海林さだおのまるかじりシリーズを理路整然とディベート状態にした感じ。かつどんの食べ方は自分とまったく同じなのでえらく共感した。
21	0122-0126	トーキョー・プリズン	柳広司 角川文庫 700円		戦時中に消息を絶った知人の情報を得るため巣鴨プリズンを訪れた私立探偵のフェアフィールドは、調査の交換条件として、囚人・貴島悟の記憶を取り戻す任務を命じられる。捕虜虐殺の容疑で拘留されている貴島は、恐ろしいほど頭脳明晰な男だが、戦争中の記憶は完全に消失していた。フェアフィールドは貴島の相棒役を務めながら、プリズン内で発生した不可解な服毒死事件の謎を追ってゆく。当時の世情を描き戦争の暗部を抉るミステリー。探偵と囚人のやりとりは「羊たちの沈黙」風。いい味を出していて面白いが密室殺人のトリックは実際にできるか大いに疑問。